

愛知県立芸術大学主催シンポジウム

7月14日(日)、愛知県立芸術大学(以下、愛知芸大)主催のシンポジウム「芸術教育の新たな可能性～愛知芸大『病院アウトリーチプロジェクト※』がめざすもの」が名古屋市内にて開催され、約70名が参加した。

鮎京愛知県公立大学法人理事長の開会挨拶に続き、坪田文化庁参事官による「芸術教育の新たな可能性への期待」と題した基調講演が行われた。

第1部では、愛知芸大生の楽曲演奏および以下5名による講演が行われた。



ピアノとコントラバスによる演奏

講演者：安原プロジェクト副代表(愛知芸大音楽学部教授)、三木プロジェクトスーパーバイザー(愛知芸大非常勤講師)、石川藤田医科大学事務局総務部長、平田愛知県福祉局長(前愛知県公立大学法人理事)、藤原中経連常務理事事務局長

藤原常務理事事務局長は、「経済界が新産業を創造するには、芸術の力も不可欠である。7月に立ち上げたナゴヤ イノベーターズ ガレージでも愛知芸大出身作家の作品を展示している。今後はさらに、音楽分野でのコラボレーションを愛知芸大と考えたい」と述べた。

第2部では、「『病院アウトリーチプロジェクト』の成果と課題、今後の展望」をテーマに、井上プロジェクト代表(愛知芸大音楽部教授)をコーディネーターとして、坪田参事官および第1部講演者5名によるパネルディスカッションが行われた。



パネルディスカッションの様子

ネーターとして、坪田参事官および第1部講演者5名によるパネルディスカッションが行われた。

藤原常務理事事務局長は、「当地域は“芸術”需要が小さい」ことを指摘し、「地域一体で“芸術”との距離感を縮めていく活動が必要」と、地道な地域活動の重要性を訴えた。

※病院アウトリーチプロジェクト：病院に芸術家が出向きアートを届ける活動と活動に関わるアーティストの育成を目指すプロジェクト

(企画部 鈴木 裕彦)

講演会「最近の異常気象の特徴」

7月26日(金)、中経連は総合政策会議において、(一財)日本気象協会気象予報士の北村泰宏氏を講師に迎え、「最近の異常気象の特徴」と題した講演会を行った。



講演いただいた北村氏

北村氏は、2018年冬季の低温と大雪、7月豪雨、夏季の記録的な高温を例にあげ、近年の異常気象の特徴とその要因について解説した。また、30年間にわたり年平均気温が上昇し、短時間強雨発生回数が増加している一方、年間の無降水継続日数も増加している点を指摘したうえで、温暖化の進行が降水量の集中性を高めている可能性があることを示唆した。

(総務部 伊藤 康隆)

在日米国商工会議所副会頭 表敬訪問

7月31日(水)、在日米国商工会議所(ACCJ)より副会頭のレイ・プロパー氏、理事のマイケル・ウィーニック氏をはじめ7名が中経連を訪れ、

豊田会長以下幹部らと懇談した。懇談での発言要旨は以下のとおり。

【ACCJ】

- 中部圏は保守的な面が強く、起業は大変難しいと感じている。一方で、住環境の面では大変住みやすく、当地を好んで住んでいるアメリカ人が多くいる。
- 中部圏は観光で苦戦していると聞かすが、ものづくり産業や住みやすさ、地理的な環境、食べ物に大変魅力があり、今後も伸ばしていくべき点だと考えている。
- ポテンシャルを引き出し、中部圏をさらに盛り上げていきたいので、さまざまな面で中経連と意見交換や交流をしていきたい。

【中経連】

- ものづくりをリードする企業が集積する中部圏では、ハード面のイノベーションは企業内で起きているが、ソフト面のイノベーションが弱い傾向にある。

- 異業種・異分野とコラボレーションし、中部圏のものづくりの特性を生かしたソフト×ハードのイノベーションを起こし、新企業を根付かせるための取り組みをはじめている。
- 新しいものとの連携は、アメリカ企業が大変得意とする。ACCJからもご意見をいただき、保守的な面のある中部圏に刺激を与えていただきたい。



懇談後に記念撮影(中央:プロパー氏、中央左:ウィーニック氏)

(国際部 平山りえ)

キャリア教育の充実

～「企業・人材プール」ご協力をお願い～

中経連は、中部圏の発展に必要な人材の育成には、産学が連携して中部圏全体で取り組むことが重要だと考えています。その取り組みとして、中経連会員企業から会員大学の授業に講師を派遣する「企業・人材プール」を実施しています。2018年度は、6大学において19社が26コマの講義を実施しました。現在は、2019年度の実施に加え、2020年度の実施に向けた「講義リスト」の準備を進めています。本事業は、今後も継続的に取り組んでまいりますので、会員の皆様には是非ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2019年度の実施例 愛知工業大学×小島プレス工業(株)

学生からのコメント

- 文献などではなく実際に生の声が聞けたことが刺激的であり、BtoB企業への関心が高まった。
- 将来設計をする上で参考にし、自分の道を考えていきたい。
- 自分がどのような人物になるべきか明確になった。

教員からのコメント

- ものづくり経営という視点から実社会を見つめ直す機会となり、学生たちの関心や意識がさらに高まった。
- 学生が自分自身を振り返る機会を通じて、今後のキャリアデザインに意欲的に取り組める形ができた。
- このような素敵なご縁をいただいた本事業に対して大変感謝している。



小島プレス工業より講師を迎え、自動車業界の大変革に向けた対応や学生自身のキャリアデザインについて講義を実施した

【問い合わせ】企画部 鈴木・岡戸 TEL 052<962>8091